



第Ⅳ章 重点プロジェクト

ひたちなか市第2期観光振興計画において、特に注力して取り組む事業と「市民力」との協働による観光振興の取組です。

波光きらめく太平洋と磯崎灯台

Ⅳ-1 重点プロジェクト

(1) 基本的な考え方

現状と課題の整理から見えてきた取り組むべき施策のうち、第2期観光振興計画において、特に注力する事業を「重点プロジェクト」とします。

ひたちなか市の観光がさらに発展するためには、観光に直接かかわる事業者や行政だけでなく、市民が来訪者を温かく迎え入れ、もてなすまちを目指す必要があります。

そのために、第2期観光振興計画では、ひたちなか市が誇る「市民力」との協働による観光振興を重点プロジェクトとして取り組みます。

(2) 5つのプロジェクト

第2期観光振興計画で取り組む重点プロジェクトは、次の5つです。

1 ひたちなか海浜鉄道の延伸と回遊観光の推進

ひたちなか海浜鉄道を軸として、市内観光の回遊性を向上させる取組です。

達成目標値：延伸の実現と延伸に対する市民の理解 70%

2 観光案内所の整備

市内3つの集客エリアへの観光案内所開設と、道の駅の整備検討の取組です。

達成目標値：観光案内所設置3箇所と道の駅の開設

3 新しい「海の観光」への取り組み

刻々と変わる需要に対応した、これからの「海の観光」づくりの取組です。

達成目標値：地元観光事業者による海水浴場の開設、運営

4 外国人観光客の受け入れ体制の整備

新たな顧客である外国人観光客を受け入れ、もてなすための取組です。

達成目標値：外国人観光客の満足度 90%

5 市民力による観光まちづくり

市民自らが「住みたいまち」と誇りを持てる、「住んでよし、訪れてよし」の魅力ある観光まちづくりの取組です。

達成目標値：市民のまちづくりへの参加割合 90%

Ⅳ-2 各プロジェクトの概要

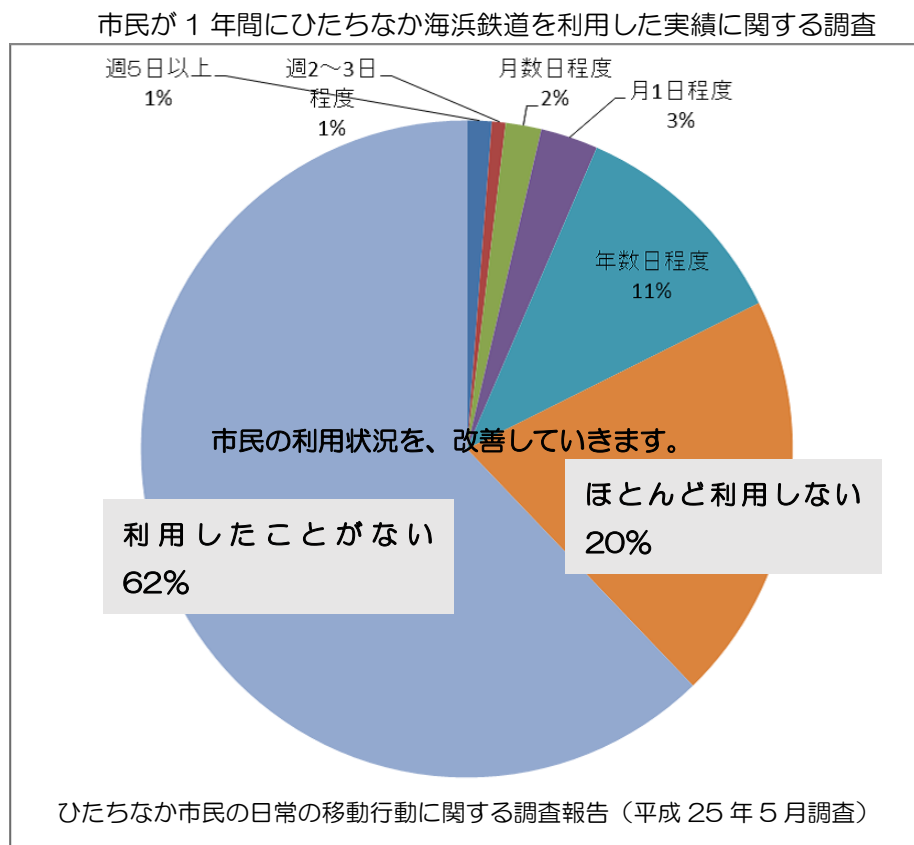
(1) ひたちなか海浜鉄道の延伸と回遊観光の推進

廃線の危機を乗り越え、平成 20 年 4 月 1 日に設立、運行を開始したひたちなか海浜鉄道(株)湊線は、通勤や通学などの沿線住民の生活路線としての役割のほか、観光客など来訪者の市内での移動手段としての役割を持っています。

また、初日の出列車や車内での演劇上映などの企画列車の運行やレトロな車両、独自デザインの駅名標、築 100 年の駅舎といった数々の魅力により、鉄道の存在自体が観光資源としての役割を果たしています。

今後、高齢社会の進展に伴い、車を運転しない市民の割合が増加することが見込まれる中で、市民の自由な移動を確保するために公共交通の果たす役割は、大きくなります。そして、さらに乗客数を伸ばし、利用価値を高めるには、観光利用の拡大も重要となってきます。

このことから、第 2 期観光振興計画においては、市民の生活上の利用価値を高め、観光客にとっても便利で快適な移動手段となることを目指します。また、観光目的地となるエリアを増やし、観光資源をつなぎ合わせ、回遊性を高めるために、ひたちなか海浜鉄道の延伸の実現に向けて取り組みます。



ひたちなか海浜鉄道を軸とした回遊のイメージ図



(イメージ)

勝田駅周辺、ひたちなか地区、那珂湊地区の3つの集客エリアをひたちなか海浜鉄道で結び、市民にも来訪者にも快適で利便性の高い回遊エリアを形成します。

【市民力との協働によるプロジェクト】

■ ひたちなか海浜鉄道の必要性の認識を高める

市民のひたちなか海浜鉄道の活用を促し、市民にとって必要な存在、まちの財産であるという認識を高め、延伸に対する理解を広げます。

協働する市民力＝おらが湊鐵道応援団



平成 19 年に自治会、商工団体等により設立。廃線の危機にあった湊線の存続と利用促進活動において中心的役割を担い、存続に導いた。湊線の利用促進活動、沿線の環境美化活動、広報や情報提供、鉄道を活かしたまちづくりの推進等を実施し、利用者の増加を実現した。東日本大震災により湊線全線に被害があったが、募金を呼びかけるなど運行再開を支援した。

団員数は、現在 2,000 名を超える。

【具体的な取り組み】

- ◇ 応援団報、ホームページ、フェイスブック等による鉄道の広報活動
- ◇ 自治会の協力による駅や沿線への植栽活動
- ◇ 那珂湊駅舎での観光案内所の運営
- ◇ 乗車証明書の発行と沿線地域での特典サービスの提供

■ 沿線地域の魅力と観光資源を活用し、回遊性を高める

ひたちなか海浜鉄道の駅とその沿線地域の観光資源を結び、来訪者にとって魅力的で巡りたくなる観光地区の形成に取り組みます。

協働する市民力＝MMM（みなとメディアミュージアム）



ひたちなか海浜鉄道湊線沿線を舞台に開催する現代アートプロジェクト。毎年、8月、那珂湊の駅やまちなかを中心に、作品の展示やイベントを実施している。「産(地元の商店街や事業所)+学(大学生、教員)+芸(アーティスト)」の三者からなる実行委員会により組織され、芸術表現と地域との協働によるまちの活性化を目的として、平成 21 年より活動している。ひたちなか海浜鉄道の駅名標デザインを手掛け、2015 年度グッドデザイン賞を受賞した。

【具体的な取り組み】

- ◇みなとメディアミュージアム（8月）の開催
- ◇通年でのメディアアートによるまちづくり活動の実施
- ◇那珂湊駅周辺地域の観光案内板、表示板と回遊ルートの企画

■ 延伸の計画作成、新たな目的地の利活用の検討

勝田駅周辺、那珂湊地区やひたちなか地区の将来を見据え、市民と来訪者にとって魅力的な延伸ルートを選定し、新駅周辺の整備を検討します。

協働する市民力＝ひたちなかまちづくり株式会社

	<p>「まちを、商店街をもっと楽しく元気にしよう」と、市内事業者代表、ひたちなか商工会議所ほか有志が集い、出資、設立された株式会社。勝田駅周辺のまちづくり支援、賑わい創出を手掛け、将来的には、那珂湊地区、佐和地区など、市内全域に活動を展開する方針。収益を追求する法人ではなく、民間の柔軟性とスピードに加え、公共性と公益性を兼ね備えた特性により、まちづくりに貢献することを目的としている。（設立年月日 平成 27 年 4 月 1 日）</p>
--	--

【具体的な取り組み】

- ◇観光まちづくりに関するマネジメント組織（DMO）の形成
- ◇延伸に伴い、整備するターミナル施設の管理や運営の検討

※DMO＝Destination Management Organization／Destination Marketing Organization の略。

造語：観光地域づくりの舵取り役を担う法人を指す。

(2) 観光案内所の整備

現在、市内には全国から来訪するお客様を迎える最初の窓口としての観光案内所がなく、旅の帰り道に本市の特産品や土産品を買うための観光物産センターにあたる施設も少ない状況にあります。また、観光案内ガイドの派遣やレンタサイクルなど、付帯サービスを提供する拠点施設も整っていません。

このことから、第2期観光振興計画では、来訪者の快適な観光のために、市内3つの集客エリアに「観光案内所」を設置します。また、観光案内のほか、食事、土産等の物産販売、レンタサイクルや荷物預かり、パークアンドライドなど、総合的に観光サービスを提供する機能を備えた「道の駅」の整備について検討します。

観光案内所の開設先と道の駅整備検討地区



【市民力との協働によるプロジェクト】

■ 勝田駅に観光案内所の開設と各種サービスの提供

全国から訪れる観光客、海外から訪れる外国人観光客を最初に迎える観光案内所を開設するとともに、市内での快適な観光に役立つサービスを提供します。

協働する市民力＝ひたちなかまちづくり株式会社（前掲 37 頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇市が開設する観光案内所の管理や運営の受託
- ◇駅前空き店舗を活用した荷物預かり、レンタサイクルサービス等の実施
- ◇勝田 TA・MA・RI・BA 横丁でのおもてなし事業の実施

■ 那珂湊駅に観光案内所の開設と各種サービスの提供

市内回遊の移動手段の軸となるひたちなか海浜鉄道的那珂湊駅に観光案内所を開設し、那珂湊地区での快適な観光に役立つサービスを提供します。

協働する市民力＝おらが湊鉄道応援団（前掲 36 頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇市が整備する観光案内所の管理や運営の受託
- ◇歴史散策の案内ガイドサービスの提供
- ◇みなとまちなか漫遊マップの制作と発行
- ◇ほしいも、干物等の地場製品の販売

■ ひたちなか地区に「観光案内所」の設置と「道の駅」整備の検討

ひたちなか海浜鉄道の延伸実現の際に新設される駅に、「観光案内所」を設置します。

また、「道の駅」の整備については、国道 245 号沿いや海岸線沿い、国営ひたち海浜公園近く等、幅広く検討します。

協働する市民力＝ひたちなかまちづくり株式会社（前掲 37 頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇観光案内所の管理や運営、道の駅の整備とその管理、運営の検討
- ◇ほしいも、タコ、那珂湊焼きそばほか、地域の食ブランドの流通や販売

(3) 新しい「海の観光」への取り組み

本市の海は、豊かな景観、新鮮な魚介類、海水浴や磯遊びの場など、多くの恩恵をもたらしてくれる重要な観光資源の一つです。

全長 13 km に及ぶ海岸線には、茨城港常陸那珂港区、磯崎漁港、白砂の阿字ヶ浦海岸、平磯中生代白亜紀層、姥の懐マリンプール、那珂湊漁港といった変化に富んだ景色を見せる海岸があり、近年では、市民によるジオパーク活動の取り組み、海岸線道路の整備、国営ひたち海浜公園の海浜部と阿字ヶ浦海岸の一体的な利活用により、本市の海の価値がさらに高まると期待されています。

しかし一方で、海水浴事業については、レジャーの多様化、嗜好の変化などにより利用者は年々減少する傾向にあります。また、海水浴場に対する観光事業者の価値観にも変化が生じています。

このような背景から、第 2 期観光振興計画においては、観光事業者を中心に様々な関係者と、これからの「海の観光」を考え、必要な施策に取り組みます。

市内観光資源マップ



【市民力との協働によるプロジェクト】

■ 景観豊かな海岸の魅力を活かした体験観光の実践

美しい海岸線を活用したウォーキング、サイクリング、磯遊びなど、海に触れ、戯れる体験型の観光事業について、積極的に取り組みます。

協働する市民力＝茨城県北ジオパーク ひたちなか・東海インタープリター

	<p>地層、岩石など、地球にかかわるさまざまな自然遺産を大地の公園とし、これらの魅力を楽しむジオツーリズムの案内人がインタープリターである。</p> <p>平成23年に日本ジオパーク委員会から認定された茨城県北ジオパークのひたちなか・東海インタープリターは、本市平磯の中生代白亜紀層の魅力を、来訪者へ紹介している。</p>
---	---


【具体的な取り組み】

- ◇中生代白亜紀層の魅力を紹介するジオツアーの実施
- ◇休止期の姥の懐マリンプール施設を活用した磯遊び、海岸散策ツアーの実施
- ◇国営ひたち海浜公園内の沢田遊水地ガイドツアーの実施

■ 魚食の魅力を活かし、広める、海の観光の実践

地元で養殖や水揚げされた魚介類を、より多く市場に供給することを目指し、ひたちなかの魚の魅力を、広くPRします。

協働する市民力＝那珂湊漁業協同組合、磯崎漁業協同組合、那珂湊水産加工業協同組合

	<p>地魚の供給、魚食の普及や推進に貢献する漁業協同組合や水産加工業協同組合は、本市の水産業の基幹組織である。</p> <p>震災後、出荷規制等により、十分な漁活動ができないが、漁業協同組合は、女性部、婦人部による加工品販売や直販などに力を入れ、水産加工業協同組合は「タコ日本一」宣言の本の出版に携わり、タコのブランド化に取り組んでいる。</p>
---	---


【具体的な取り組み】

- ◇観光バスツアーなど、旅行企画導入による漁港見学や直販の実施
- ◇女性部や婦人部等による、県外での地魚、加工品の宣伝販売
- ◇体験観光と担い手確保につなげる乗船体験、漁業体験の実施

■ 新しい海水浴場づくりの取り組み

観光客のニーズに対応し、末永く賑わい、活気ある浜辺となるよう、地元の観光事業者が主体となり運営する、安全で快適な海水浴場づくりに取り組みます。

協働する市民力＝阿字ヶ浦、平磯地区の観光事業者

	<p>平磯は明治後期より潮湯治場、阿字ヶ浦は大正末期から「前浜テント村」として海水浴場が始まり、昭和末期に最盛期を迎えた。海水浴場を軸に宿泊や飲食店、土産屋などの観光事業者が生計を営んできたが、レジャーの多様化、海岸の浸食や東日本大震災の被災や風評により、低迷する海水浴事業から、スポーツ合宿に事業の重点を移行しつつある。</p>
---	---


【具体的な取り組み】

- ◇観光事業者と地域住民の若い世代による、海と海水浴場づくりの話し合い
- ◇観光事業者が運営する海水浴場の仕組みづくり
- ◇国営ひたち海浜公園海浜部と阿字ヶ浦海岸の一体的な利用の検討

■ 里浜づくり活動による通年型の浜辺の賑わい創出

イベントやビーチスポーツ活動から、浜辺での人々の新たな交流や賑わいを創出する里浜づくりに取り組みます。

協働する市民力＝阿字ヶ浦・磯崎里浜づくり実行委員会

	<p>海への親しみをテーマとしたビーチスポーツや余暇活動等により、人々の新たな交流や活動空間を創出する里浜づくりを目的として活動している。主な活動内容は、里浜げんき市場、ランタンナイト、ビーチふれあいフェスティバルなどを開催している。地元旅館組合、地元自治会、子供会、行政などで構成されている。(平成18年4月1日設立)</p>
---	--

【具体的な取り組み】

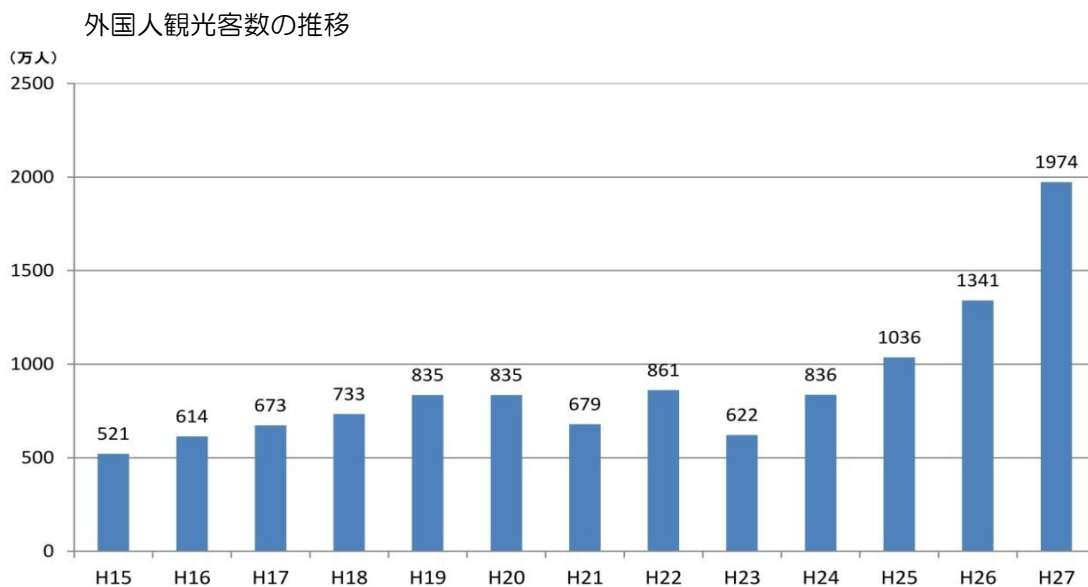
- ◇一年をとおした浜辺でのイベント活動による賑わいの創出
- ◇ビーチバレーをはじめとする、ビーチスポーツやレクリエーションの普及活動
- ◇地場産品を販売する手づくりの道の駅「里浜げんき市場」の開設

(4) 外国人観光客の受け入れ体制の整備

政府は、観光を成長戦略と位置づけ、重点施策として外国人観光客の増大を図っており、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年までに、訪日外国人観光客（インバウンド）の目標を2,000万人としています。しかし、平成27年には1,900万人を超え、政府目標は前倒しで達成される見通しとなっています。

本市においても、国営ひたち海浜公園が多くの海外メディアで紹介された影響もあり、春のネモフィラや秋のコキアの行楽シーズンには、近年、多くの外国人観光客が訪れて賑わっています。

人口減少による国内観光需要の減少が予想される中、外国人観光客は、地域の活性化に大きく寄与することが期待されています。今後、受け入れ体制の整備や誘客活動を積極的に進め、市内でインバウンド需要を取り込むことが必要となっています。



【市民力との協働によるプロジェクト】

■ 勝田駅に観光案内所の開設と各種サービスの提供

外国人観光客を、最初に迎える観光案内所を勝田駅に開設し、市内での快適な観光に役立つサービスを提供します。

協働する市民力＝ひたちなかまちづくり株式会社（前掲37頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇市が開設する観光案内所の管理や運営の受託
- ◇勝田駅前空き店舗を活用した荷物預かりサービスの実施
- ◇勝田駅前空き店舗を活用したレンタサイクルサービスの実施

■ 那珂湊駅周辺の観光案内板、表示板のリニューアル

那珂湊駅周辺に点在する史跡や名勝の観光案内板、表示板のリニューアルと併せて多言語化し、統一性とデザイン性をもたせることにより、来訪者にとって魅力的で巡りたくなる観光エリアの形成に取り組みます。

協働する市民力=MMMみなとメディアミュージアム（前掲 36 頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇那珂湊駅周辺地域の観光案内板、表示板の図案作成と回遊ルートの企画

■ 公衆無線 LAN の整備及びパンフレット、表示板の多言語化

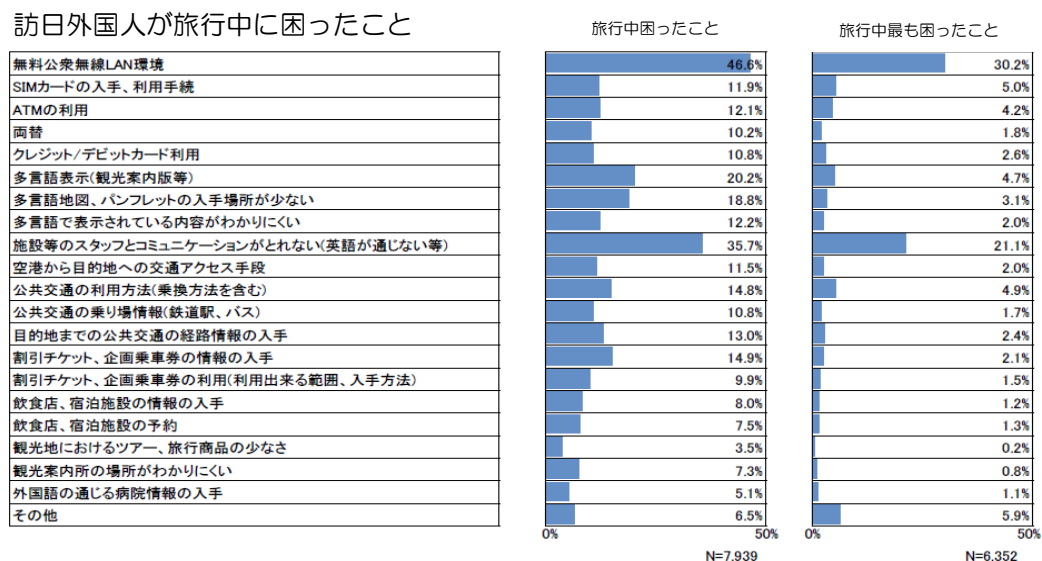
外国人観光客が、快適に回遊できる環境や情報収集手段の整備、サービスの充実に取り組みます。

協働する市民力=ひたちなか海浜鉄道、宿泊業者、飲食店、商業施設

【具体的な取り組み】

- ◇公衆無線 LAN の整備
- ◇パンフレット、表示板の多言語化
- ◇免税店の拡充

訪日外国人が旅行中に困ったこと



「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査」

(5) 市民力による観光まちづくり

近年、国内旅行のスタイルは、団体から少人数のグループや個人へ、そして観るだけの物見遊山的な旅から、人や自然と触れ合う交流型・体験型へと変化してきています。また、地域や市民が旅行会社や観光事業者に代わって観光をけん引する主役となる事例が増えてきています。

観光客は、まちが市民主体の活動で、すなわち市民力により温かく活気に満ちていることに魅力を感じるようになってきています。本市の市民力・地域力は、かなり高く、歴史もあります。観光においては、お祭り等イベントの主催や湊線の応援、観光案内等に、多くの市民や団体が主体的に参加し、活動しています。

観光まちづくりを進めるには、市民力を育むとともに市民、事業者と協働のもと、積極的にまちの魅力を高めることが重要になっています。

【市民力との協働によるプロジェクト】

■ 地元で愛されている食の魅力を活かした情報発信

地元で愛されている食材や料理を用いて、地域おこしにつなげるとともに食の魅力を観光資源として、観光客の誘客に取り組みます。

協働する市民力＝那珂湊焼きそば大学院



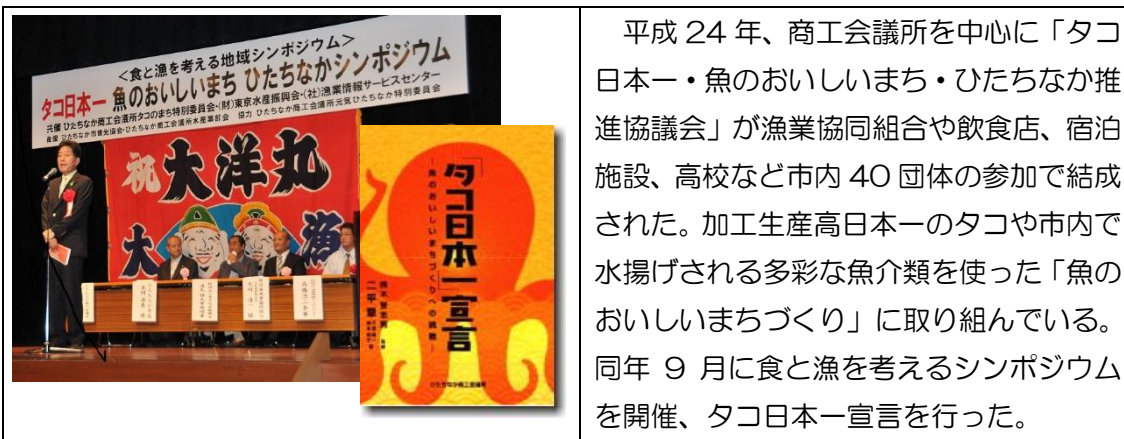
平成 25 年 12 月、「那珂湊焼きそばのれん会」と「けんちんの会」が合流し発足。

地元で 60 年以上愛され続けている「那珂湊焼きそば」による、まちおこしやまちづくりを目的とする。那珂湊高校、那珂湊水産高校や商工会議所青年部、民生委員など多くの協力会員のもと、精力的な活動を行っている。平成 27 年 10 月には、B-1 グランプリ in 和田大会に初出展し本市 PR に大きく寄与した。

【具体的な取り組み】

- ◇B-1 グランプリ等のイベント出展にあわせ、本市のまちの魅力を発信
- ◇市民と来訪客が交流できる、那珂湊地区での朝市の開催

協働する市民力=タコ日本一・魚のいいまち・ひたちなか推進協議会



平成 24 年、商工会議所を中心に「タコ日本一・魚のいいまち・ひたちなか推進協議会」が漁業協同組合や飲食店、宿泊施設、高校など市内 40 団体の参加で結成された。加工生産高日本一のタコや市内で水揚げされる多彩な魚介類を使った「魚のいいまちづくり」に取り組んでいる。同年 9 月に食と漁を考えるシンポジウムを開催、タコ日本一宣言を行った。

【具体的な取り組み】

- ◇「タコ日本一宣言」の本の出版と世界タコ焼きグランプリの開催による、タコと地魚のいいまちのブランディング活動の実施
- ◇明石市とタコによる魚食普及の推進と観光交流活動の実施
- ◇地魚とその料理の活用による食育事業と消費の拡大

■ おもてなしの心あふれる観光、交流都市づくりの推進

観光客と積極的に交流する市民を増やし、市民一人ひとりが来訪者を温かく迎え入れる意識の醸成に取り組みます。

協働する市民力=ひたちなか市観光ボランティア連絡会



史跡案内部会、イベント部会、エキストラ部会の3部会からなる連絡会を平成 18 年に発足。市民主体のおもてなしを実践している。平成 28 年 1 月に反射炉の改修工事が行われ、反射炉シンポジウムが開催されたことにより、地元住民が歴史資源を再認識する機会となり、これを機に歴史資源を積極的に内外に情報発信している。

【具体的な取り組み】

- ◇観光名勝や史跡のガイド
- ◇観光資源を活かした体験交流、各種イベントのスタッフとしての協力
- ◇講習会や実地研修による人材育成と確保、自主的な活動のための体制づくり
- ◇いばらき観光マイスター認定者の増加とひたちなか観光マイスター制度の導入

■ 多様なイベントによる地域活性化

市民による手づくりのひたちなか祭りや八朔祭りをはじめ、国内最大級の野外音楽イベントであるロック・イン・ジャパン・フェスティバル、ティーンズロック・イン・ひたちなか等の開催を支援し、交流人口の拡大や賑わいの創出に取り組みます。

協働する市民力＝ひたちなか祭り実行委員会（ひたちなか商工会議所青年部）



ひたちなか商工会議所青年部は、若い経営者や次代を担う後継者の団体として、平成16年に勝田商工会議所青年部と那珂湊商工会議所青年部が合併して誕生した。会員相互の親睦と人間関係の構築、さらには活動を通しての事業の活性化と地域振興を目指しており、ひたちなか祭りは、会員が中心となった実行委員会が開催している。

【具体的な取り組み】

- ◇山車神輿パレード、ダンスパレード等の市民参加型イベントの実施
- ◇各種メディアへの広報活動を通じた本市知名度の向上
- ◇催事の開催による郷土愛の醸成

協働する市民力＝八朔祭り実行委員会



通称「湊八朔祭り」と言われ、祭りの形式は、天満宮の祭神が、むかし海から出現したという伝説にもとづく浜降（はまおり）祭り。旧那珂湊地区の町内で開催年ごとに年番を決め、その町内が祭りを取り仕切ることになる。浜降りの出興に際して様々な風流物が供奉し、行列に従うところが特徴となっている。

【具体的な取り組み】

- ◇獅子舞、みろくなどの市指定無形民族文化財や引き屋台等を活用した誘客
- ◇伝統催事の開催、継承による郷土愛の醸成

協働する市民力＝ひたちなか祭り大会実行委員会、那珂湊海上花火大会実行委員会
阿字ヶ浦海岸花火大会実行委員会



毎年、大きな花火大会が市内3箇所で開催されており、色とりどりの迫力満点な花火が打ち上げられ、多くの人で賑わっている。各花火大会については、それぞれ特徴的なものがある。目の前で打ち上げられるもの、水中から光の花が咲いたように見えるもの、広い浜辺で潮の香りや波の音を聞きながら見ることができるものなど、それぞれに趣がある。

【具体的な取り組み】

- ◇花火大会の開催による賑わいの創出
- ◇各種メディアへの広報活動を通じた本市の知名度向上

協働する市民力＝ひたちなか市観光協会（前掲47頁参照）



【具体的な取り組み】

- ◇勝田全国マラソン大会の会場内に売店エリアと観光案内所を開設
- ◇ホームページによる宿泊施設と入浴施設の案内

協働する市民力＝ひたちなか市観光協会、常陸農業協同組合、那珂湊漁業協同組合、
磯崎漁業協同組合



平成 16 年、勝田市観光協会と那珂湊観光協会が合併し発足。本市の観光振興を目的に各種観光事業の企画、立案、運営を行っている。観光資源や推奨土産品のプロモーション、各種イベントへの出店、海水浴場監視、親善大使派遣等、本市知名度の向上と来訪者の利便性向上を目的に活動を行っている。

【具体的な取り組み】

- ◇ロック・イン・ジャパン・フェスティバルの会場内に、市内観光に関する総合案内所を開設
- ◇ホームページでの宿泊施設の情報提供と紹介
- ◇出店事業や「みなと屋」による地元の食の魅力の提供



協働する市民力＝一般社団法人ひたちなか青年会議所



平成 6 年、社団法人勝田青年会議所と社団法人那珂湊青年会議所との日本初の社団法人合併を経て誕生した。会員は、明るい豊かな社会を築き上げることを共通の理念とし、様々な活動をしている。青年の真摯な情熱を結集し、社会貢献することを目的に組織された団体であるため、20 歳から 40 歳までの年齢制限を設けている。平成 16 年からティーンズロック・イン・ひたちなか、平成 17 年からキャンプビレッジを開催している。

【具体的な取り組み】

- ◇ティーンズロック・イン・ひたちなかの開催による、音楽のまちづくりの推進
- ◇ロック・イン・ジャパン・フェスティバル開催期間中に、宿泊施設の不足を補うためキャンプ場を運営
- ◇次世代の人材育成と青少年の健全育成事業の実施

協働する市民力＝ひたちなかフラ協会



フラの普及、発展を図るとともに、各種事業に参画し地域振興に寄与することを目的に、平成 20 年 2 月に発足した。毎年、国営ひたち海浜公園で開催している「ひたちなかフラフェスティバル」は、県内外のフラ愛好者 1,000 人以上が一堂に集うフラの祭典。

【具体的な取り組み】

- ◇ひたちなかフラフェスティバルの開催による賑わいの創出
- ◇新たな海の魅力としてフラの普及や啓発活動
- ◇フラを通して近隣の市町村や全国の自治体との交流活動の実施

■ 音楽のまちづくり

全国規模の野外音楽イベント「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」の開催を契機に、「音楽のまち ひたちなか」というブランドを、広く全国に情報発信するとともに、音楽愛好家に音楽活動の機会を提供し、音楽により来訪者を温かく迎え入れる。

協働する市民力＝ひたちなか音楽のまちづくり実行委員会



音楽により市民生活に、ゆとりや潤い、賑わいを創出し、街中に音楽が溢れる環境づくり、音楽文化の向上を目指すために、平成 19 年 4 月に設立された。設立から 9 年が経過した現在、60 を超える音楽愛好団体が、市内外の公共施設や商業施設を中心にコンサートを行っている。

【具体的な取り組み】

- ◇勝田全国マラソン大会やひたちなか祭り、商業施設等でのコンサート開催
- ◇「子育て支援・多世代交流センター(仮)」での音楽活動、音楽文化の情報発信
- ◇音楽により外国人観光客を迎える活動の実施

■ 徳川家ゆかりの史跡や近代産業遺産を活用した回遊観光の推進

水運、舟運で栄えた頃の面影を残す街並み、竈竈閣跡地や反射炉跡など、徳川家ゆかりの史跡をめぐり探訪する、歴史と産業観光を推進します。

協働する市民力＝観光ボランティア連絡会（史跡案内会）（前掲 46 頁参照）



【具体的な取り組み】

- ◇ひたちなか海浜鉄道で結ぶ史跡や名勝への回遊観光の推進
- ◇徳川家ゆかりの地（史跡や名勝、水戸八景など）として、同じ歴史的背景を持つ近隣市町村との連携
- ◇伊豆の国市（韮山反射炉）、釜石市（橋野鉄鉱山）など、幕末から近代への産業遺産でつながるまちとの広域観光交流活動の実施

■ 若い世代との連携

若者の斬新なアイデアやパワーを取り入れ、様々な手法を用いて本市の魅力を発信します。

協働する市民力＝みなとちゃん（那珂湊高校）



平成 25 年、県立那珂湊高校起業ビジネス科の授業の一環として、生徒が考案した手づくりのご当地キャラクター。地域のイベントをはじめ各種事業に積極的に参加し、地元を盛り上げることを目的に活動している。市花「はまぎく」「魚」「ひたちなか海浜鉄道」「ほしいも」など、本市の観光資源がモチーフとして取り入れられている。

【具体的な取り組み】

- ◇地域イベント等への参画、B-1 グランプリでの那珂湊焼きそば大学院の支援
- ◇観光キャンペーン等への参加
- ◇ご当地キャラクターとしての本市広報活動

■ 大型イベントとの連携による地域活性化

本市で開催されるロック・イン・ジャパン・フェスティバルや勝田全国マラソン大会などの大型イベントと連携し、来訪者のまちなかへの誘導に取り組みます。

協働する市民力＝ひたちなかもちづくり株式会社（前掲 37 頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇勝田 TA・MA・RI・BA 横丁との連携による、まちなかへの回遊企画の実施
- ◇勝田駅前空き店舗を活用した荷物預かり、レンタサイクルサービス等の実施

■ 茨城港常陸那珂港区への観光客船の誘致

観光客船を運航する会社に対し、本市の市民力を生かした歓迎行事や国営ひたち海浜公園、那珂湊おさかな市場等の魅力ある周遊観光コースの提案を行い、客船の誘致に努めます。

協働する市民力＝ひたちなか市観光協会（前掲 47 頁参照）

【具体的な取り組み】

- ◇大洗町と連携した地元密着の体験や着地型周遊観光コースの提案、ガイド
- ◇クルーズ船寄港時の歓迎イベントの開催
- ◇土産や飲食売店の出店

■ 地域に根ざした市民活動団体との連携

市民自らが立ち上げ、地域に根ざした活動をしている団体と協働し、「市民力」を活かした観光のまちづくりに取り組みます。

協働する市民力＝くらし協同館なかよし



住民の高齢化、減少により団地内の店舗等が相次いで撤退するなか、生協の空き店舗を活用して平成17年に地域住民により設立された特定非営利活動法人。郊外の大規模ショッピングセンターへの移動手段を持たない高齢者の食を支え、生活の不安を払拭するためのたまり場としての機能を果たしている。地域の人材を掘り起こし、社会参加の機会をつくり、生きがいと活力あるまちづくりに貢献している。

【具体的な取り組み】

- ◇観光まちづくりの担い手となる人材の発掘と育成
- ◇観光客を温かく迎え入れるための、おもてなし意識の醸成とその普及
- ◇土産や特産品等の販売による地産産品のPR活動

